

第1回協議会 議事録

令和元年7月25日（木）18時00分～19時30分
登別市市民活動センター

- ◆出席委員 齊藤 正史 会長
望月 一延 副会長
近井 一夫 委員
豊原 仁 委員
垣内 登紀子 委員
松山 哲男 委員
北山 智加子 委員
成田 昭浩 委員
計8名

- ◆事務局：商工労政グループ 大澤総括主幹
林倉 主査
田村 担当員
宮谷 担当員

- ◆議題：（1）ビジョンの取組事業や地域経済実態調査の結果から、今後の
取り組みについての協議

【要旨】

項目	発言者	内容
1. 会長及び副会長の選出	事務局 委員 事務局 委員一同	<p>始めに改めて協議会を立ち上げることとなった経緯について説明。</p> <p>それでは登別市中小企業地域経済振興協議会運営要綱に基づき会長と副会長の選出を行います。</p> <p>要綱では互選となっておりますので、自薦・他薦はございませんか。</p> <p>事務局一任。</p> <p>事務局一任の声がありましたので、事務局では委員長に斎藤委員、副委員長に望月委員にお願いしたいと考えておりますが、ご異議ございませんか。</p> <p>異議なし。</p>
2. 会長及び副会長あいさつ	会長	<p>只今、会長に指名いただきました斎藤です。</p> <p>今回、新たな協議会が設置されるということで、当時富良野にふらのマルシェができたときに、商工会議所の商業部会で視察に行きたいという声があがりまして、募集したんですけれどもなかなか人数が集まらなくて、当時市議だった松山さんに声をかけまして、そのバスの中で道内各地で中小企業振興条例を中小企業家同友会が中心となって進めていると話をして、それがきっかけで登別市に条例を作ろうという動きになりまして、東日本大震災の後から条例作りに向けて会議を進めていきました。</p> <p>条例作りの当初から松山議員が中心となって進めてきた中で私もお手伝いさせていただき、議員の提案という他の地域と違う形で進められてきました。</p> <p>また、いろいろな会議の場で市議の皆さんと議論を交わし、相当な回数の会議を重ねて参りました。</p> <p>また、帯広や釧路、別海など先進地を訪問し、研究を重ねながら条例を制定後、協議会で地域経済振興に向けた協議を行い提言書を提出してから3年経っておりますが、改めて原点に返って研鑽しながら問題点を洗い出しながら進めていきたいと思っております。</p>
3. 各委員自己紹介		各委員からの自己紹介

4. 事務局からの説明	事務局	<p>別紙1「登別市中小企業地域経済振興ビジョンについて」を説明。</p> <p>別紙2「登別市中小企業地域経済振興ビジョンに基づく取り組み事業について」説明。</p> <p>別紙3「登別市中小企業地域経済実態調査の結果」について説明。</p>
<p>(1)ビジョンの概要について</p> <p>(2)ビジョンに基づく取組事業について</p> <p>(3)地域経済実態調査の結果について</p>	会長	今、事務局から説明あった内容について質問のある方はいらっしゃいますでしょうか？
5. 今後の取り組みについて協議	委員	アンケート調査の回収率が30%に満たないということでしたが、背景としてはどのようなことが考えられるのでしょうか？
	事務局	前回と回答率は変わらないが、電話でアンケートの回答についてお願いしているところではあるが、質問の内容が経営者でなければ回答できないところがあるので、なかなか回答していただけないのではないか思っている。
	委員	<p>自分の会社が危機感もなく、答えなくてもしっかり経営していけるのであれば問題ないと思うが、時間的余裕とか、答えられない何かマイナスの要因があるのであれば、そこを掘りだすことでアンケートの結果も変わるのではないかと思いました。</p> <p>また、人材不足との回答が多かったが、海外の方の採用がないのかお聞きしたいです。</p>
	事務局	ヒアリング調査で聞いたところ、外国人材を雇用したい企業もあるが、5年しか雇用できないので技術の承継や、実務経験を積まなければ資格も取得できないので、雇用が難しいと考えている企業が多かったです。
	会長	実際に外国人を雇用している市内企業はあるのかお聞きしたいです。
	事務局	登別温泉では、日本工学院の留学生がホテルのフロントやレストランで働いていると聞いています。
	副会長	市内食品製造業者でも雇用していると聞いています。

会長

市内病院がベトナムから看護職を雇用すると聞いていますが、費用対効果や、実際来た場合の日本人職員の反応を確認するため2名雇用するなど、外国人雇用に向けた取り組みが進められています。

委員

他に意見のある方はいらっしゃいますでしょうか？

先ほど事務局から取り組み事業について説明いただきましたが、大事なことだと思いますし、また、アンケート調査についても、先ほどの回収率のご質問についてもそうですが、このような問題課題についてどうしていくのか押さえておくしかないのかなという思いもあります。

前の協議会においてもそうでしたが、今後の登別経済の柱、構想というものをどうするのかというものがなければ部分的にやりましたで終わってしまうのではないかと思います。

自分としては登別市における地域経済の振興において何が大事なのか確認していくなかで、取り組みを考えていく必要があるのではないかなと思えてならないわけです。

登別において全市観光という言葉をよく耳にするのですが、じゃあ本当にどう登別市における全市観光について具体的な構想をお持ちになっているのでしょうか？

私は、全市観光ということは、登別温泉地区だけではない、登別の駅前だけでない、幌別や鷺別地区などいろんな市内における、観光を通した地域経済を考えていく、それにはどういう構想が必要なのか、そういう視点でこの場で協議していく必要があるのかなと思えてならないんです。その辺をどんなお考えなのかなということと、2点目は、行政としては財政状況が厳しい状況の中で、登別駅前に施設を建てるのもいいんですが、国の補助金を使って建てるのでしようが、しかしながらランニングコストはどうか、あるいは他の公共施設のランニングコストはどうかと全体的なことを把握した上で、建てるのであればいいのですが、そういうことを踏まえておかないと結果的に首を閉めることになりかねないかなという思いもしていますので、そういうことを視野に入れながら、どういう取り組みを進めていかなければならないのかを考えていかなければならないと思います。

もう1点ですが、8月26から28日の間で第14回目の全国大学政策フォーラムが開催されます。

テーマは全市観光のとらえ方のなかで、学生達が考える全市観光とは何かをテーマとして設定しております。

後日、ご案内させていただきたいと思いますが、是非お聞きになって何らかのヒントとしていただければと思います。

また、今回市内学校が、特別参加して提言をしてくれるということもありますので、地元の若い人達の視点を聞きながら経済の振興を進めていけばいいのかなと思っております。

他になにかございますでしょうか？

経済の実態調査報告書、いろんな課題や取り組むべきことがこれから見えてくるのかなと、またこの中で気づいたことは、今後使いたい支援策について特になしの回答が多くて、特になしというのをそのまま受け流していいのかなと、特に支援する必要がないのか、市で実施している支援策について周知されていないのか、その辺をヒアリングの中で把握されているのかなと思いますが、そういう部分も含めて活用していく形になればいいと感じました。

地域経済の実態調査についてですが、室信さんはスワンレポートという形で決められた企業から、定点観測という形で年に4回くらい現在の状況について報告されております。定点ですので動向が分かりやすく分析しやすいのかなと思っております。

せっかく協議会が動き出しましたので、今後の取り組みとして、先ほど話のあった根幹の部分について、ビジョンについてまだ納得できていないのかなという発言だと思っておりますので、そこを含めて話し合いをしていきたいと思っております。

方向性としては、時間を長くしないで回数を増やすような形のほうが負担が少ないのでは無いかと思っておりますので、進めていきたいと思っております。

報告書の中から問題課題をピックアップするのと、根本的な地域経済の振興について次回は協議していきたいと思っております。

会長
委員

会長

運営委員会の設置についてですが、垣内委員と成田委員と北山委員についてお願いしたいと思います、よろしいでしょうか。

異議なしの声あり。

ありがとうございます、負担のないように進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局

まだ説明していない資料がありまして、先ほど全市観光のお話があったと思いますが、観光客の消費を取り込めないかということで、協議会からは多機能拠点の設置と法人組織の設立について提言があったところですが、市としましても大事なことだと認識しておりますし、観光による経済波及効果を全市的に取り込めないか考えているところですが、DMOについてもなかなか進まない状況にあります

別の視点なんです、市内企業から再生可能エネルギーの取り組みによる域内循環について提案がありまして、二酸化炭素排出抑制事業補助金として、現在再生可能エネルギーを活用して発電した電力を固定価格買取制度により売電しておりますが、買い取り期間が終了後の電力の使用について検証する事業として、例えば地域の資源を活用して新電力会社を立ち上げて市内の各家庭に電力を供給することができないか検討するものであります。

また、松山議員から議会でご紹介いただきました、枝廣淳子さんの資料なんです、地域経済を振興する上では、いかに市の内部でお金を循環させるかが重要で、地域経済の活性化させるための鍵としては、漏れバケツの穴をふさぐことが重要で、漏れを知る方法としましては産業連関表というものがございます、ある産業の需要が増えたときに他産業へのどういった経済波及効果を及ぼすのかが分かる表として、国が発表しているものはデータが古く、広域的な範囲でしか掲載されていないので、使い勝手が良いのですが、例えば下川町では、大学と連携して産業連関表を作成し、赤字としてエネルギーが13億円あることが分かり、漏れをふさいだ場合の経済効果として、電気と暖房用燃料を木質バイオマスで賄うことが出来れば、域内生産額が28億円増加し、100名の雇用が創出される

		<p>と試算されております。</p> <p>下川町では産業連関表をもとに取り組みを進め、現在では、シイタケ栽培や木工作家など新たな創業が増加し、UターンやIターンなど年間200人以上の転入があり、住民税も平成25年と平成28年を比べると、約1,500万円増加しているとのことでした。</p> <p>また、環境省が公表している地域の所得循環によりますと、登別市の地域外のエネルギー代金85億円が地域外に流失しておりますので、先ほどの補助事業を活用して、違った視点ではありますが、再生可能エネルギーを活用した域内循環を進めていけないか検討しているところです。</p>
	<p>会長</p>	<p>下川町の森林バイオマス施設のベースは、三井物産が出資した施設でして、ですから外部の大企業が絡んだ事業ですから、地域の中小企業が自分たちで始めた事業ではないと思います。</p> <p>そういう取り組みについて、まったく不可能ではないと思いますのでこちらから出資してもらうとかは考えられますが、先ほど委員が言われたものとは違うと思いますが、こうした事例も参考にしながら、進めて行ければと思います。</p> <p>全体を通して他に意見はございますでしょうか？ それでは、次回改めて協議会を開催したいと思います、今日はありがとうございました。</p>